スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山形県白鷹町

自 治 体 名 ： 山形県白鷹町
担 当 課 名 ： 白鷹町教育委員会学校教育係
電 話 番 号 ： ０２３８－８５－６１４４

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

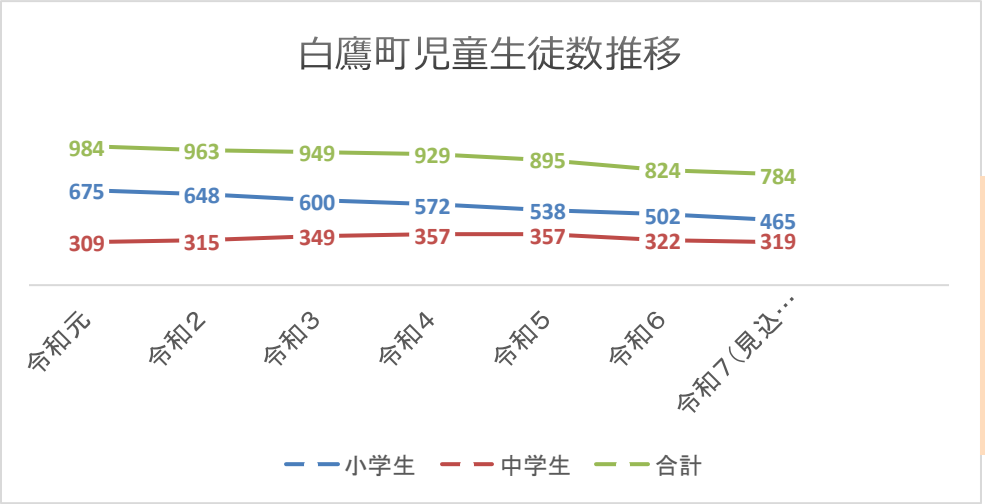
面積	158㎢
人口	12,241人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	322人
部活動数	13部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

令和６年度の白鷹中学校の生徒数は322人。生徒数の減少については、現在は少しずつという状況ではあるが、令和８年度では293人。令和12年度では、222人にまで減少する見込みである。

令和６年度の運動部加入生徒数は、235人。校外活動団体加入者は24人。文化部加入者は、41人。未加入者は22人となっている。また、部活動に加入しながら、スポーツ少年団やクラブに加入している生徒も多数いる。全体の人数から見れば、現在の状況では、活動に支障をきたす程の少人数にはなっていないが、数年後には、部活動全体の再編がされなければ単独での活動ができなくなる種目が増えることがわかっている。実際、ソフトボール競技は、他校との合同部活動の形をとっている。

令和６年度は、すでにスポーツ少年団や総合型クラブとして活動している剣道、柔道、サッカー、水泳の４種目において約４か月間、休日の活動の実証事業を行った。実証事業後に指導者や保護者へ行ったアンケートから、指導者謝金や生徒の輸送、大会出場時における引率や役員の配置、会場確保、連絡の仕方などについて、課題が出てきた。



【課題】
白鷹町の児童数の減少や出生数を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなることが想定される。

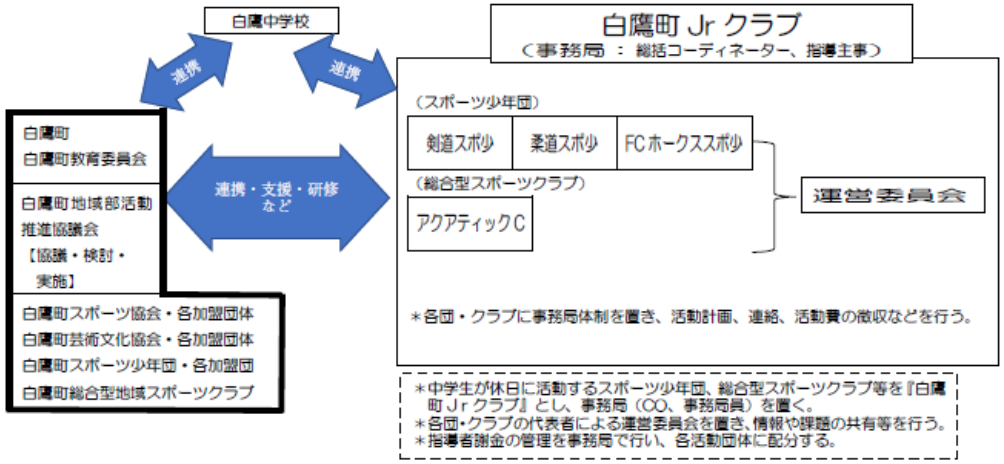
2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）

【R6運営体制図】



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・教育委員会が事務局となり運営体制整備を図る。

・中学校および指導者との連絡調整等を行う。

◉首長部局

・総務課財政係・・・予算措置

年間の事業スケジュール

令和６年４月	実証事業について 初旬　教職員対象説明会 中旬　中学校保護者対象説明会 下旬　中学校部活動顧問・コーチ・保護者代表対象説明会
令和６年５月～７月	顧問・コーチ・クラブ指導者打合せ期間
令和６年６月	第１回地域移行推進協議会
令和６年７月	県大会出場クラブチームの視察
令和６年８月	上旬　クラブ指導者・保護者代表対象、活動内容の詳細説明
令和６年８月	下旬　剣道、柔道、サッカー、水泳の４種目で実証事業開始（第４土曜日） 各クラブ巡回
令和６年９月	地域移行の活動について町民への周知 部活動改革研修会、管内担当者情報交換会
令和６年１０月	県新人大会出場クラブチームの視察
令和６年１１月	各クラブ巡回
令和６年１２月	実証事業終了（第３土曜日）
令和７年１月	アンケート実施と集約 実証事業のまとめと次年度の計画 中学校説明会において次年度の方向性を説明
令和７年２月	第２回地域移行推進協議会

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	4クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		4クラブ（4 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	13人	全体の運営スタッフ数	17 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
しらたか剣士会スポーツ少年団	市町村運営型	剣道	週1回	8:30~11:30	1年4人 2年1人	R6.8月~12月	主に町武道館	3 人	4 人	年会費10,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
柔道スポーツ少年団	市町村運営型	柔道	週1回	8:00~12:00	1年生4人 2年生4人 3年生1人	R6.8月~12月	主に町武道館	4人	5人	年会費1,500円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
FCホークスサッカースポーツ少年団	市町村運営型	サッカー	週1回	8:00~12:00	1年生8人 2年生4人 3年生8人	R6.8月~12月	主に東陽の里グラウンド、試合時は他市町グラウンド	3人	4人	年会費6,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
アクアティックククラブ	市町村運営型	水泳	週1回	8:30~11:00	1年生4人 2年生4人 3年生1人	R6.8月~12月	町民プール、生涯プラザ	4人	5人	年会費1,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

特になし

2.実証内容と成果

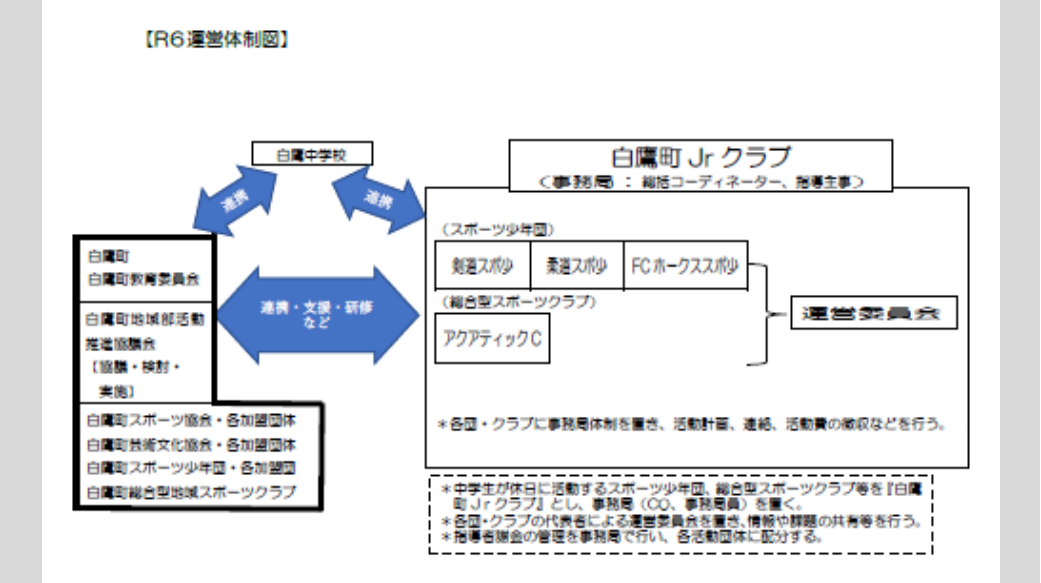
スポーツ庁

主な取組例

●白鷹ジュニアクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道、柔道、サッカー、水泳
運営団体名	白鷹町
期間と日数	剣道、柔道、サッカー、水泳： 8月24日 ～ 12月21日　月４回程度
指導者の主な属性	スポーツ少年団指導者、部活動コーチ
活動場所	学校施設、公営施設
主な移動手段	スクールバス、自家用車
１人あたりの参加会費等（年額）	剣道：10,000円 柔道：1,500円 サッカー：6,000円 水泳：1,000円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年 （受益者負担）

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●代表指導者

役割：活動における代表者として、指導の中心になると共に、学校、保護者との連携を行う。

●代表保護者

役割：指導者との連携をとり、活動が円滑に進むように支援を行う。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

総括コーディネーターがスポーツ協会および各スポーツ少年団代表者、指導者と情報交換を行い、連絡調整を行う。

継続して推進協議会を開催し、諸課題について検討し、実施に向けた準備を進めた。中学校教職員、保護者、指導者等への説明会を開き、地域クラブに対する理解を求めたほか、町民への周知も行う。

既存の４団体の地域クラブ化を行う。

取組の成果

〇総括コーディネーターを配置したことにより、関係団体、新規クラブ、他市町クラブ関係者との情報交換を重ね、会議運営・連絡調整等を円滑に行うことができた。

〇中学校との連携を図り、クラブ代表と中学校(教職員、保護者、コーチ等)の効果的な連絡調整等を行うことができた。

〇中学校で、４団体のクラブ実証期間中、他種目の部活動顧問の担当調整を行い、部活動出勤回数が減り、働き方改革につながった。

時間外在校等時間の平均

	４～７月	８～１０月	比較
実証事業該当顧問	７０．２時間	４３．７時間	－２６．５時間
他顧問	６７．７時間	５３．２時間	－１４．５時間

コーディネーターの具体的な動きの実績

・１か月ごとに各クラブを巡回し課題等のヒアリング・助言等を実施
・協議会の調整等を実施し、関係団体との連携に努めた
・学校、参加者、保護者、指導者への説明会を実施
・大会等へ出向き、新クラブの視察と関係者と情報交換を実施
・指導者研修会参加の呼びかけ

今後の課題と対応方針

●公的支援の対象とする地域クラブの基準について、今後、設定していくかも含め、県が示した地域スポーツクラブ活動の要件等を踏まえ、要件や基準等を調整し、登録・指定等を実施する必要があると考える。

●コーディネーターと共に事務的内容を担当する職員についての養成と配置を検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

・指導者を対象に、諸会議および講習会を開催し、指導にあたる際の注意点、留意点を確認していく。

種目と人数（資格有・無）

・剣道４人
資格有：１人
資格無：３人

・サッカー３人
資格有：２人
資格無：１人

・柔道４人
資格有：４人
資格無：０人

・水泳２人
資格有：１人
資格無：１人

資格

・スポーツ少年団育成指導員
・B級指導員
・C級指導員
・JSPOスタートコーチ
・JFAC級ライセンス
・JSPOコーチ１

取組の成果

研修会参加者数（町内からの参加者数）

〇12月　町スポーツ協会、スポーツ少年団指導者研修会
・スポーツ少年団関係　15人
・スポーツ協会関係者　44人
＊指導者におけるコミュニケーションスキルを中心に研修を行った。

〇県地域クラブ等指導者研修会
・３人

町スポーツ指導者研修会



2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【白鷹町スポーツ振興懇談会・スポーツ少年団(クラブ)指導者研修会】

・対象：スポーツ少年団指導者、クラブ指導者、スポーツ協会会員
　　総合型地域スポーツクラブ指導者等

・目的：指導における言葉や態度等によるハラスメント問題を予防するとともに、指導する子ども達の力が十分に発揮できるようにするため、指導者としての大事なコミュニケーションスキルについて学ぶ。

・工夫した点：町のスポーツ指導者の年齢が高齢化してきていることと、若い指導者が出始めていることから、研修内容について、あまり知られていないが、実践に結びつけやすいペップトークという内容にした。

指導者研修の参加実績

・開催日：　12 月　7 日
・開催回数：　1 回
・参加人数：　66 人

この研修会の他に、県で開催した地域クラブ等指導者研修会に町から３人が参加した。町としても研修会の情報をコミュニティーセンター等に流しながら推奨した。これから地域クラブに関わろうとする方が自主研修として参加した。

受講者の声

参加した地域クラブ指導者の声

「ほめるもよいが、勇気づける言葉や行動が大切であり、実践したいと思います。結果も伴えばよいが、かなわない場合も良しとしたい。」

「現職の時から、『ほめ言葉のサンドイッチ』を大切にしてきた。『ペップトーク』も同じなのかなと思いました。もちろん、子どもに対しても、大人に対しても今後も大切にしていきます。」

「スポーツだけでなく、会社や他の組織でも活かしたい。」

「『またー！』『なんで？』『何やってんの？』など熱くなると、つい出てしまうことを反省します。事実を受け止め、そこから先のことを力いっぱいできる言葉がけを心がけ、子ども達が今していることがより好きになって頑張れるようにしていきたい。」

今後の課題と対応方針

まだまだ実際に指導に関わっている人たち（保護者も含めて）の参加が少ない。指導者に関しては、より信頼される指導者育成のためにも、今後、必須研修を位置づけることも検討が必要になってくる。

研修内容としては、『救急処置』『基礎体力づくり』『コミュニケーションスキル』など、誰にも関係する内容を検討する。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

地域部活動推進協議会で令和6年度に行う実証事業や他市町の活動情報などについて説明し、事業を進める上での課題や留意点、などについて意見を集約した。

今年度、４回の説明会の中で、指導者や保護者、学校部活動顧問等からは、土曜日の活動に対してのわからない点や不安なことなど質問を受け、共有しながら進めてきた。初めて地域クラブとして実証事業の対象とした剣道、柔道、サッカー、水泳の４種目については、これまでも休日はスポーツ少年団やクラブとして活動してきた団体である。

中学校で活動する場合は、スクールバスの部活動便を利用できるようにした。

実証事業期間（8月末～12月）の中で、毎月上旬に実施記録簿を確認し、それを基に、10月と1月に指導者に対する謝金の支払いを行った。

年度当初予定していた2回の指導者研修会は、クラブの活動との調整により、1回の研修会とした。

総括コーディネーターが、他市町の担当者や他市町クラブ指導者、保護者等から直接、活動の様子や課題などの情報を取り込んだ。

●成果の評価

・実証事業を行った４種目については、これまでも休日の活動をスポーツ少年団やクラブとして活動していた日があるため、通常の活動では、指導者の動きや保護者との連携がほぼ問題なくできた。

・大会参加時の引率や役員の配置において、人数が足りずに一部の指導者や保護者の負担が大きくなってしまった。大会参加時の協力体制も連携していく。

・会場が中学校以外の場合のスクールバス（臨時便）は利用できないとしてきたことで、家庭での送迎が多くなり、家庭の都合で会場に行けなかったり、保護者の負担感が大きくなった例が多かった。来年度は、臨時便が利用ができるように準備する。

・指導者謝金における人数や時間の制限について、予算の中で柔軟に対応できるようにする。併せて、各種目の活動費等について検討する機会を設定する。

・より信頼される指導者の育成を目指して、指導者研修会必須研修を位置づけることも検討が必要になってくる。研修内容としては、『救急処置』『基礎体力づくり』『コミュニケーションスキル』など、誰にも関係する内容を検討する。

●今後に向けて

クラブ化によって発生する指導者謝金や生徒の輸送手段、活動費や運営費（部活動費との区分け）などについて、指導者や保護者からの改善要望があり、実行期間に向けて検討していく。

令和７年度に新規として加わる４種目については、各種目の実情にあった形で活動が始められるように、指導者と保護者、学校部活動顧問間の話し合いを十分に行っていく。

令和８年度の活動に向けて、予算措置について町当局と話し合いを重ねていく。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・保護者の声

●アンケート結果

Q１活動についての日程の連絡のお知らせや連絡は、
誰からどのような方法であったか。



Q２休日の活動が部活動ではなく、スポーツ少年団・クラブ活動になって変わったことはありますか。



Q３どのような点が変わったと感じたか。

・送迎が増えた。
・保護者間・指導者間の連携が大変になった。
・指導者が変わり、生徒に戸惑いが生じた。
・楽しいという子供の声があった。

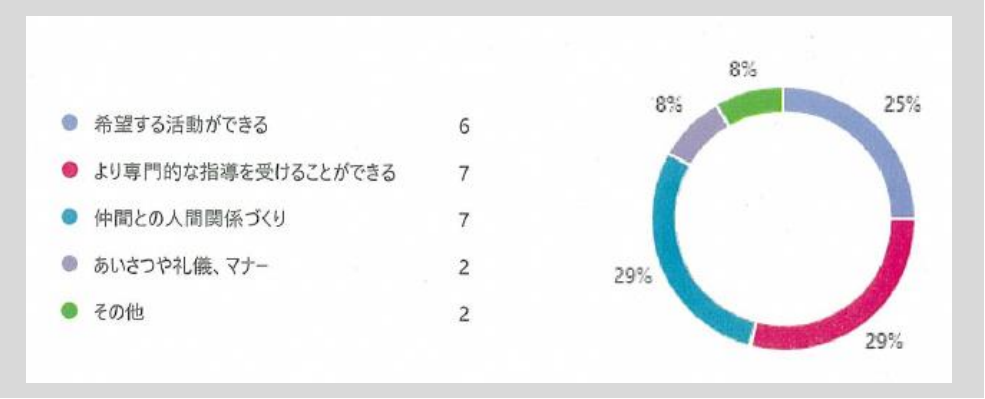
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

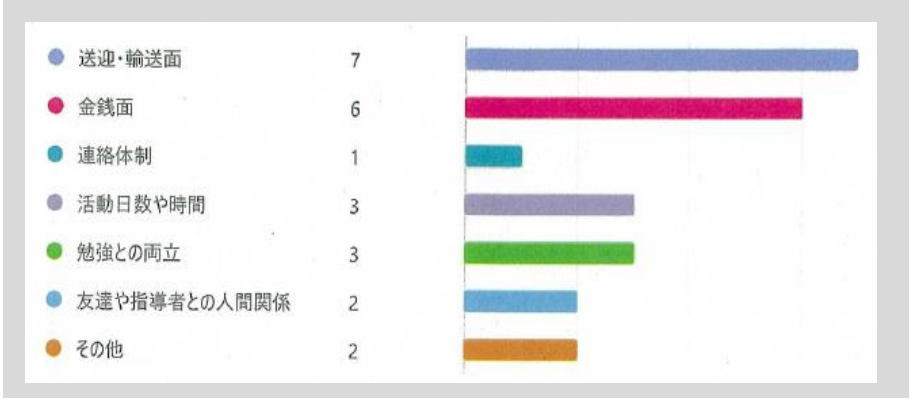
アンケート結果・保護者の声

●アンケート結果

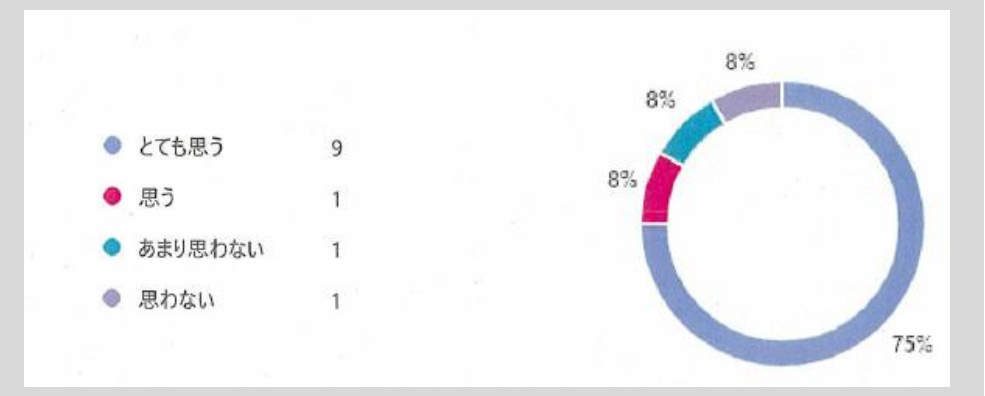
Q４ 今後の地域スポーツクラブ活動について
期待していることは何か。



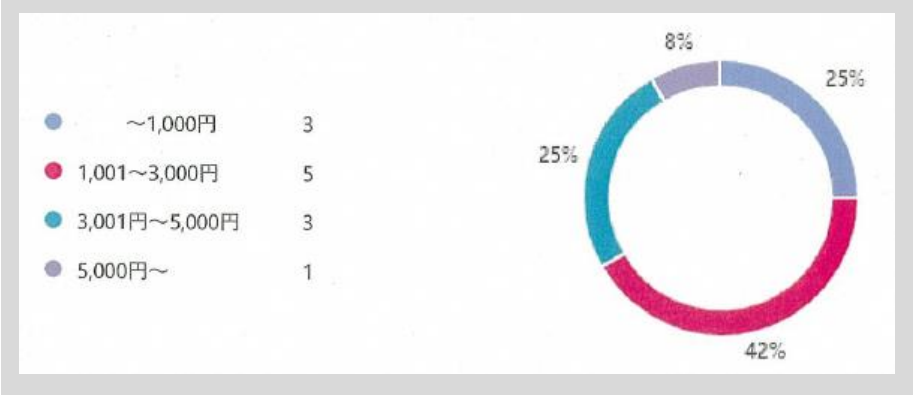
Q５ 今後の地域スポーツクラブ活動について
不安や心配に感じている点は何か。



Q６ 今後の地域スポーツクラブ活動について
活動を支えていくためにスクールバスは必要だと思うか。



Q４ 今後の地域スポーツクラブ活動について
運営していくにあたり、参加費や活動費（月額）についてどのように考えるか。



2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・指導者の声

●アンケート結果

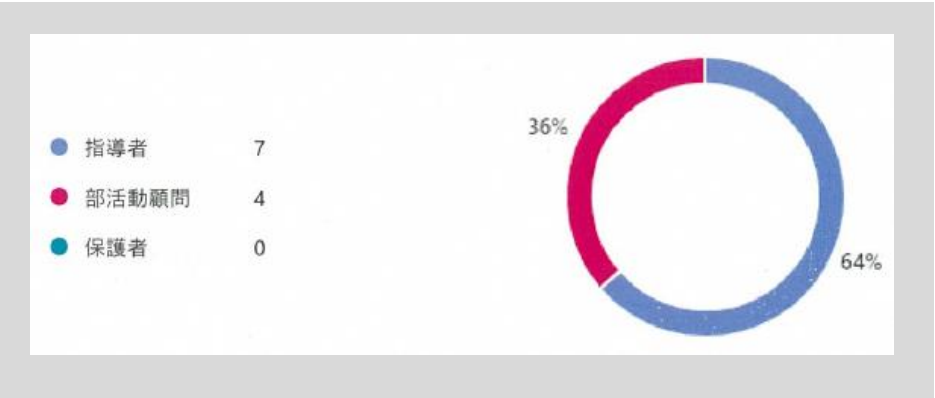
Q１活動日程・場所、連絡調整について課題はあったか。



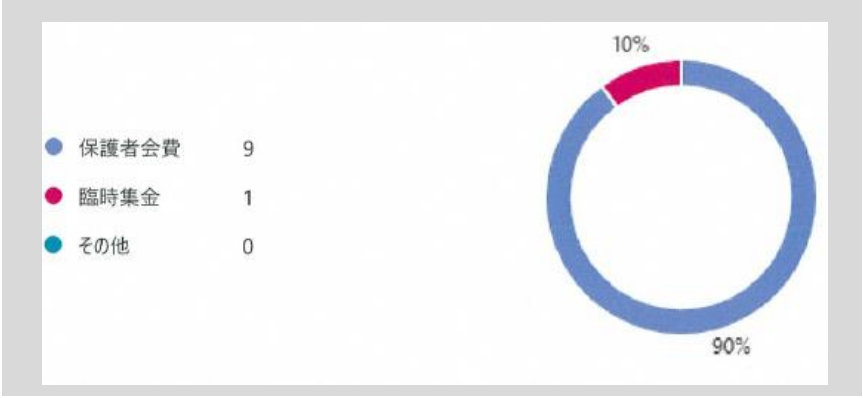
Q２指導者謝金についての考え



Q３大会参加に関わって
参加申し込み手続きは誰が行ったか。



Q４大会参加に関わって
参加料の支出は誰が行ったか。



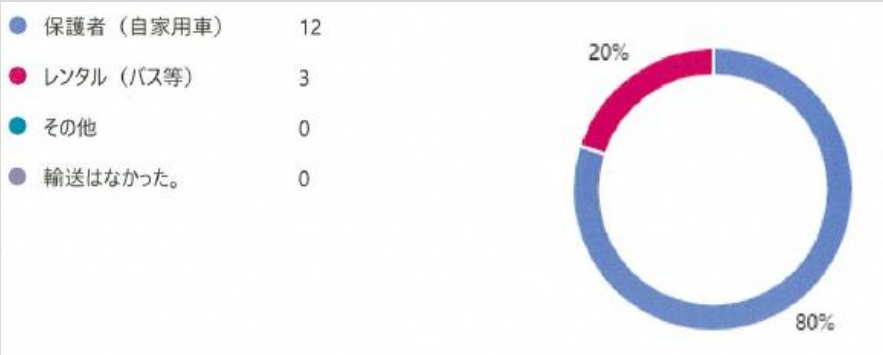
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・指導者の声

●アンケート結果

Q５大会・練習試合参加時の生徒の輸送について
輸送手段



Q６大会参加に関わって
スクールバスの必要性



Q７今年度の実証事業を通して、気づいた点や意見

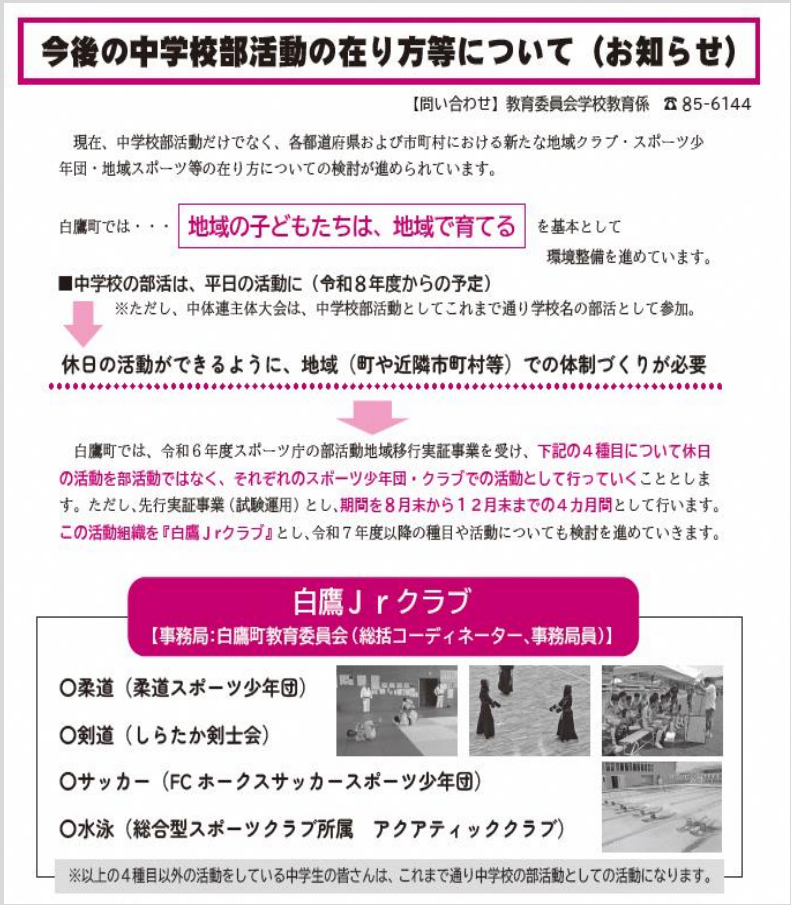
・様々な負担が増えないようにしたい。
・部活動のままの方が、保護者にとっては負担が少なくて済むと思う。
・中体連が存在する限り、地域移行は困難と考える。学校での活動（部活動）が全くない状態であれば、以降もスムーズにいくと思う。
・レンタカーやガソリン代等、活動場所の確保等、実働に関することを充実させてほしい。
・冬季間は、他市町の会場・施設で練習しているが、送迎が難しく参加できない生徒が増えてきた。スクールバスで活動場所に行くことができるよう町の支援の仕方を検討いただきたい。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

アンケート結果・広報資料

町報で令和６年度の実証事業についてお知らせした。町報に掲載することで、より多くの人に周知することができ、町民の方からも今後の活動について、様々なご意見を伺うことができた。



今後の中学校部活動の在り方等について（お知らせ）

【問い合わせ】教育委員会学校教育係　☎85-6144

現在、中学校部活動だけでなく、各都道府県および市町村における新たな地域クラブ・スポーツ少年団・地域スポーツ等の在り方についての検討が進められています。

白鷹町では・・・ 地域の子どもたちは、地域で育てる を基本として 環境整備を進めています。

■中学校の部活は、平日の活動に（令和８年度からの予定）

※ただし、中体連主体大会は、中学校部活動としてこれまで通り学校名の部活として参加。

休日の活動ができるように、地域（町や近隣市町村等）での体制づくりが必要

白鷹町では、令和６年度スポーツ庁の部活動地域移行実証事業を受け、下記の４種目について休日の活動を部活動ではなく、それぞれのスポーツ少年団・クラブでの活動として行っていくこととします。ただし、先行実証事業（試験運用）とし、期間を８月末から１２月末までの４カ月間として行います。この活動組織を『白鷹Ｊｒクラブ』とし、令和７年度以降の種目や活動についても検討を進めていきます。

白鷹Ｊｒクラブ
【事務局:白鷹町教育委員会（総括コーディネーター、事務局員）】

○柔道（柔道スポーツ少年団）
○剣道（しらたか剣士会）
○サッカー（FC ホークスサッカースポーツ少年団）
○水泳（総合型スポーツクラブ所属　アクアティッククラブ）

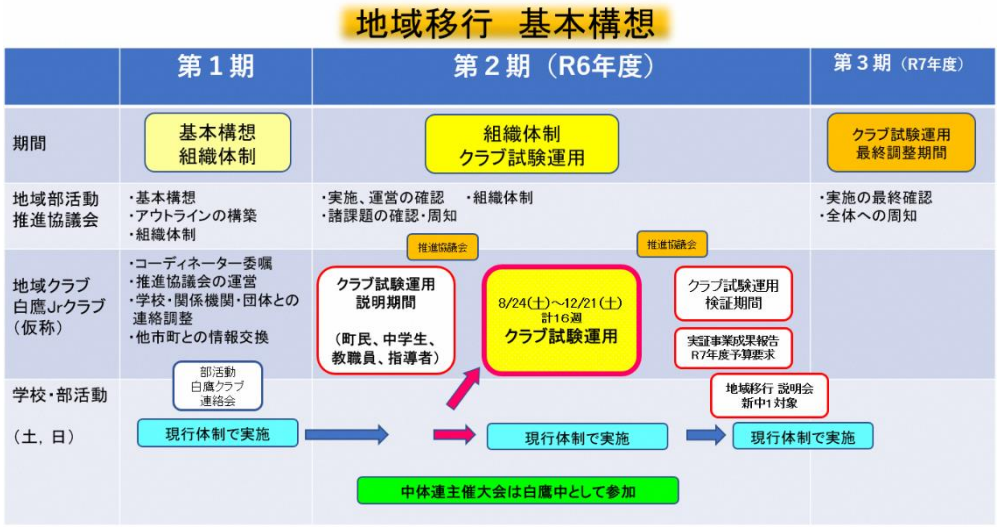
※以上の４種目以外の活動をしている中学生の皆さんは、これまで通り中学校の部活動としての活動になります。

【町報による広報チラシ】

４月の教職員説明会を皮切りに、PTA総会での保護者説明会、部活動顧問・コーチ・保護者代表者会を行い、年度当初の周知を図った。７月には実証事業該当の種目説明会を行い、実証事業のスタートを切った。期間中は、指導者との打ち合わせや教職員アンケート等を行い、状況把握に努めた。







【説明会の様子】

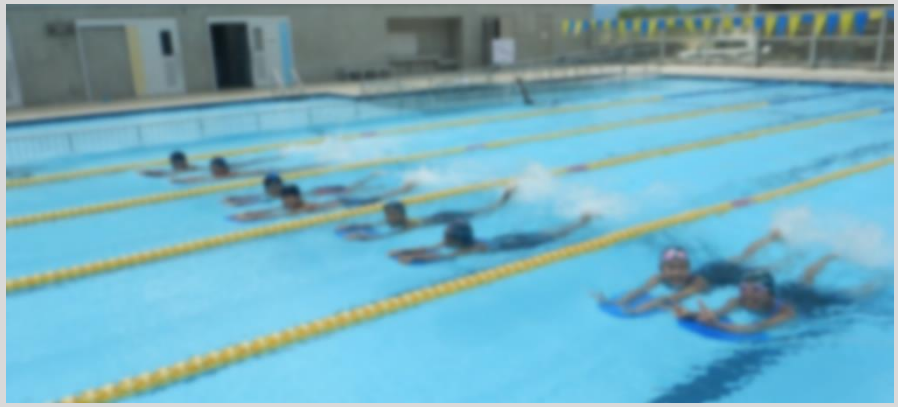
2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【FCホークスサッカー】



【アクアティック】



【しらたか剣士会】



【柔道】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年

協議会設置、検討開始 ▶ **受け皿団体や指導者の選定、拠点校の選定** ▶

令和６年

学校現場との調整 ▶ **生徒、保護者への説明** ▶ **地域クラブ活動の開始** ▶

令和７年

地域クラブ活動の拡大

令和５年度

●経過

令和５年２月に町推進協議会を立ち上げ、令和５年度には２回、協議会を開催し、部活動の現状および今後の地域スポーツ・文化の醸成を議論した。

●実施にあたって生じた課題

学校（教員）主導であった活動が、そのまま地域で受け皿となり、運営や指導面で部活動時と同等の活動を持続可能で行うことができるのか（金銭面、指導面、生徒の輸送等）。

●実施内容、工夫した点 等

協議会を進める上で、該当となる児童生徒、保護者、教員、外部指導者にアンケートを実施。現状把握に努めた。

令和６年度

●経過

令和５年度同様、町推進協議会を開催し、８月下旬から12月下旬に実証事業を具体的に進めた。

●実施にあたって生じた課題

生徒および保護者、指導者、顧問からの聞き取りやアンケートから、連絡体制の確立と顧問との連携、輸送面での負担が多く挙げられた。

●実施内容、工夫した点 等

４月当初から、学校職員、保護者、外部指導者への丁寧な説明会を開催し、周知することができた。実証事業４種目については、別日で説明会、打ち合わせ会を行った。

令和７年度

●予定

・推進協議会を２回実施

・継続４種目に加え、新たに４種目追加して実証事業を行う。

・輸送面での負担軽減を図るため、スクールバスの活用を検討・実施する。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	第１期 R5	第２期 R6	第３期 R7	最終期 R8
期間	**基本構想 組織体制**	**組織体制 クラブ試験運用**	**クラブ試験運用 最終調整期間**	
地域部活動推進協議会	・基本構想 ・アウトラインの構築 ・組織体制	・実施、運営の確認 ・組織体制 ・諸課題の確認・周知	・実施の最終確認 ・全体への周知	
地域クラブ白鷹クラブ（仮称）	・コーディネーター委嘱 ・推進協議会の運営 ・学校・関係機関・団体との連絡調整 ・他市町との情報交換 白鷹クラブ説明会	秋～試験運用（４種目から） 白鷹クラブ説明会	継続４種目試験運用（４～１２月） 新規４種目試験運用（８～１２月） 白鷹クラブ説明会	完全実施
学校・部活動 （土，日）	現行体制で実施 任意加入について説明 ・中学校　３月　４月PTA総会 ・小学校　児童・保護者向け　秋～冬（案）	現行体制で実施 部活動白鷹クラブ連絡会	現行体制で実施 部活動白鷹クラブ連絡会	

中体連主催大会については　白鷹中○○部で参加